

## 令和2年度重点目標・具体目標についての評価

※ 評価の欄は、A, B, Cの3段階で評価する。

A: 目標を超える成果があった。

B: 目標を達成した。

C: 目標を達成することができなかった。

重点目標	具体目標	担当	評価
1 個々の実態に応じた教育支援の追求	<p>新学習指導要領に基づき、より適切な指導を行うための指導計画等の見直しを行う。</p> <p>1 自立活動指導計画の活用及び改善</p> <p>2 学習計画（生活単元学習略案）の整理及び見直し</p>	学習	B
	<p>1 今年度自立活動指導計画を新様式で記入した。記入内容の確認・助言に係主任が加わった。記入後「自立活動の指導の基本」の資料を配付し、そのポイントに基づいて記入できたかどうかのアンケートをとったところ、意識が高まったという意見が多かった。また、アンケートの意見をもとに、手引き及び記入例の改善を行っている。さらに次年度より新任研において基本の確認を追加するなど、より理解を深められるよう引き続き取り組んでいく予定である。</p> <p>2 各学部で学習計画に教科的視点および反省改善を記入してもらった。臨時休業等例年と異なる状況であったが、継続して記入してもらうことで、単元設定の在り方等ブロックごとの課題点を係内で話し合うことができた。次年度はその課題改善にむけて継続して取り組んでいきたい。</p>		
	<p>生活単元学習で扱われる各教科等の内容及び生活単元学習の柱を検討・整理し、小・中学部の系統的な指導を目指す。（3年計画）</p>	小学部	B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連教科を上げることで、その関連を意識できた。また計画を作る上で、教科を意識して活かすことができるようになった。</li> <li>・ブロック内で略案の振り返りをし、指導内容や関連教科などをしっかり確認したり、見直したりすることができた。</li> <li>・学習指導部と学部内での話合いが足りないと感じた。</li> <li>・コロナ禍での活動制限や児童の重度重複化に対応できる指導内容を今後も検討していく必要がある。</li> <li>・今後年間の単元構成や指導内容などを整理されるとよい。</li> </ul>		
<p>生活単元学習で扱われる各教科の内容を見直すとともに、単元における柱を整理し、小・中学部の系統的な指導を目指す。（3年計画）</p>	中学部	B	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元で学ぶことが可能な各教科の指導内容の洗い出しをした。</li> <li>・教科やその内容を記入することで、教科を意識して指導することができた。</li> <li>・関連教科内容の表の隣に、実際の指導場面を表記することにより、より教科を活かして指導ができた。</li> </ul>			
	<p>発達検査等の活用とスキルの向上を図り、客観的な実態把握に努める。</p>	相談	B

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中に相談部内で発達検査等の研修を行った。田中ビネー検査では、検査用具を実際に使い、検査を行う児童生徒を想定しどのように行うかという実技を行った。その他、WISC-IV、絵画語彙発達検査、フロスティック視知覚検査などの用具を見ながらどのような検査であるかの研修を行った。大変参考になったという意見がでた。次年度は校内全体の研修としても行いたい。</li> </ul>		
	<p>進路に関して児童生徒・保護者のニーズの把握に努め、記録を整え、情報提供の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度「キャリアパスポート」作成に着手した。今後も本校の実態に合わせ書式、内容を検討し、そこから読み取れる児童生徒のニーズを、それぞれの学習に還元できるような意義のあるものにしたい。</li> <li>・高等部進学希望者に対して、懇談会等通し受検情報を提供できた。高等部進学については、家庭の理解、協力が不可欠であるため該当学年のみならず、広く周知する必要がある。</li> </ul>	生活	B
2 保護者、各関係機関等との連携	<p>栃木県立リハビリテーションセンターとのより良い連携ができるように調整、工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で、例年行っている連携や行事の多くが行えなかった（療法士との連携、とちりハまつり、音楽鑑賞会等）。療法士との連携については、可能な時期に実施できた。</li> <li>・本校の行事自体も行うことができず、参加していただくことができなかった。（入学式、運動会、学校祭等）</li> <li>・コロナ禍の登校再開においては、その時の状況に応じて本校で提案した登校のステップの意図を理解し、検討していただいた。児童生徒の学びの保障と安全な登校についての方策を一緒に考えることができた。</li> <li>・今年度は出前講座を2回使わせていただき、充実した研修を行うことができた（自立活動研修、PTA研修）。保護者のニーズに応えることができたこともよかった。当初は3回の予定であったが、コロナの影響で1回は実施できなかった。</li> <li>・次年度は、コロナの状況を見据えながら積極的に連携を図っていきたい。</li> </ul>	教務	B
	<p>肢体不自由特別支援学校としての専門性を生かした情報発信の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染症対策のために、今年度は今までの形での研修会の実施は難しかった。しかしリモートの形で情報発信がどのようにできるか探ることができた。講師の先生とリモートでつながり、ご指導をいただき、まとめて、次年度につなげることができた。また、宇都宮市内の早期教育相談担当者と Teams でつながり、情報交換ができた。その結果、夏季休業中の教材教具展示会で出展された教材を抜粋だがHPにあげることができた。のぎわ特支校、とちぎ特支校（肢体不自由部門）と3校情報交換会を Zoom で行うこともできた。</li> </ul>	相談	B

